



**Hinemos クラウド管理オプション**  
**ver1.0**

# 目次

<b>1</b>	<b>ライセンス</b>	<b>5</b>
<b>2</b>	<b>はじめに</b>	<b>5</b>
2.1	内容物	5
2.1.1	ドキュメント	5
2.1.2	インストーラ(ソースコード)	5
2.2	特徴	5
2.3	機能概要	6
2.4	用語	6
<b>3</b>	<b>セットアップ</b>	<b>6</b>
3.1	インストール	6
3.1.1	前提条件	7
3.1.2	Hinemosクライアント	7
3.1.3	Hinemosマネージャ	8
3.1.4	Hinemosエージェント	9
3.2	アンインストール	9
3.2.1	設定の変更	9
3.2.2	Hinemosクライアント	9
3.2.3	Hinemosマネージャ	10
3.3	HTTPSの設定	10
3.4	HTTP Proxyの設定	11
<b>4</b>	<b>ユーザ管理機能の拡張</b>	<b>11</b>
<b>5</b>	<b>リージョンとアベイラビリティゾーンの管理</b>	<b>11</b>
5.1	機能概要	11
5.2	画面構成	12
5.2.1	クラウド[スコープ]ビュー	12
5.3	アクセス権	12
<b>6</b>	<b>AWSアカウントとユーザの管理</b>	<b>13</b>
6.1	機能概要	13
6.2	画面構成	13
6.2.1	クラウド[ユーザ]ビュー	13
6.2.2	クラウド[ユーザ詳細]ビュー	13
6.3	アクセス権	14
6.4	AWSアカウント・IAMユーザの作成	14
6.5	Hinemosユーザの紐付け	14
<b>7</b>	<b>EC2インスタンスの管理</b>	<b>15</b>
7.1	機能概要	15
7.2	画面構成	15
7.2.1	クラウド[インスタンス]ビュー	15
7.3	アクセス権	16
7.4	EC2インスタンスの作成	16
7.5	EC2インスタンスの削除	18
7.6	EC2インスタンスの起動	18
7.7	EC2インスタンスの停止	18
7.8	EC2インスタンスのバックアップ	18

7.9	初期パスワードの表示 (Windows)	19
7.10	EBSボリュームのアタッチ	19
7.11	EBSボリュームのデタッチ	19
7.12	未登録EC2インスタンスのノード登録	19
7.13	存在しないEC2インスタンスの登録解除	20
<b>8</b>	<b>EBSボリュームの管理</b>	<b>20</b>
8.1	機能概要	20
8.2	画面構成	20
8.2.1	クラウド[ストレージ]ビュー	20
8.3	アクセス権	21
8.4	EBSボリュームの作成	21
8.5	EBSボリュームの削除	21
8.6	EBSボリュームのアタッチ	22
8.7	EBSボリュームのデタッチ	22
8.8	EBSボリュームのバックアップ	22
<b>9</b>	<b>EC2インスタンス・EBSボリュームのバックアップ管理</b>	<b>22</b>
9.1	機能概要	22
9.2	画面構成	23
9.2.1	クラウド[インスタンスバックアップ]ビュー	23
9.2.2	クラウド[ストレージバックアップ]ビュー	23
9.3	アクセス権	23
9.4	EC2インスタンスのリストア	24
9.5	EBSボリュームのリストア	24
<b>10</b>	<b>課金管理</b>	<b>24</b>
10.1	機能概要	24
10.2	画面構成	24
10.2.1	クラウド[課金アラート]ビュー	24
10.3	アクセス権	25
10.4	課金アラートの作成	25
10.5	課金アラートの変更	26
10.6	課金アラートの削除	26
10.7	課金アラートの有効化	26
10.8	課金アラートの無効化	26
<b>11</b>	<b>自動検知</b>	<b>26</b>
11.1	機能概要	26
11.2	インスタンスの作成・削除検知	27
11.3	インスタンスのIP更新検知	27
11.4	ストレージの作成・削除検知	28
11.5	ストレージのアタッチ・デタッチ検知	28
<b>12</b>	<b>テンプレート</b>	<b>28</b>
12.1	機能概要	28
12.2	画面構成	29
12.2.1	クラウド[テンプレート]ビュー	29
12.3	アクセス権	29
12.4	テンプレートで使われる用語	29

12.5	テンプレート機能の動作要件	30
12.6	テンプレートジョブの作成	30
12.7	テンプレートの登録	31
12.8	テンプレートの削除	32
12.9	テンプレートの変更	32
12.10	テンプレートを使用したインスタンス作成	32
<b>13</b>	<b>Hinemosマネージャの設定一覧</b>	<b>32</b>

# 1 ライセンス

Hinemos クラウド管理オプションは **GNU General Public License** となります。各種ドキュメントは **GNU General Public License** ではありません。各種ドキュメントの無断複製・無断転載・無断再配布を禁止します。

## 2 はじめに

Hinemos クラウド管理オプションとは、さまざまなプライベートクラウド/パブリッククラウドサービス<sup>1</sup>により構成された環境を、Hinemosにて効率良く運用するための機能オプションです。

また、文中のHinemosやクラウド管理オプションのバージョンにおいて、**1.0.x**と表記されている箇所の**x**はマイナーバージョン番号に読み変えて下さい。

Hinemos クラウド管理オプションver1.0は、**Hinemos 4.0.x (4.0.2以降)**で使用可能です。

<sup>1</sup> Hinemos クラウド管理オプションver1.0では、AWS(Amazon Web Services)のみの対応となります。

### 2.1 内容物

#### 2.1.1 ドキュメント

- CloudOption\_manual.pdf  
クラウド管理オプションのマニュアル（本書）です。クラウド管理オプションのインストール方法、利用方法、リリースノートが記述されています。
- CloudOption\_quickstart.pdf  
クラウド管理オプションをはじめて触る人向けのクイックスタートガイドです。Hinemosのセットアップからクラウド管理オプションの基本的な機能を使用するところまで、順を追って説明しています。

#### 2.1.2 インストーラ(ソースコード)

- com.clustercontrol.cloud\_1.0.x.zip  
クラウド管理オプションのクライアント用インストーラです。Hinemosクライアント4.0.x(4.0.2以降)がインストールされた環境で実行する事により、Hinemosクライアントにクラウド管理オプションがインストールされます。
- Cloud\_manager-1.0.x.tar.gz  
クラウド管理オプションのマネージャ用モジュールです。Hinemosマネージャ4.0.x(4.0.2以降)がインストールされた環境で実行する事により、Hinemosマネージャにクラウド管理オプションがインストールされます。

### 2.2 特徴

Hinemos クラウド管理オプションの特徴は以下の通りです。

#### 1. プライベートクラウド/パブリッククラウドサービス環境上のシステムと既存システムを一元管理

プライベートクラウド/パブリッククラウドサービス環境上の仮想マシン、仮想化されていない通常のマシンの混在した環境を、Hinemosにて一元的に管理することが出来ます。

クラウドサービス上に存在する仮想マシンの自動登録、電源ON、電源OFF、停止(シャットダウン)、削除を、Hinemosから実施することができます。

#### 2. 充実した運用管理機能

従来のHinemosによる監視機能に加え、クラウドサービス特有の情報（課金情報等）が監視可能となります。また、クラウドサービス上リソースの、バックアップ世代管理も可能となります。

#### 3. 柔軟・高機能な環境構築

テンプレート機能により、同様の環境を容易に繰り返しセットアップできます。細かな設定カスタマイズ、高度な環境設定処理が可能となります。

本ドキュメントでは、クラウド管理オプションを追加したHinemosの使用方法を説明します。

## 2.3 機能概要

クラウド管理オプションは下記の新規機能を提供します。

- リージョンとアベイラビリティゾーンの管理
- AWSアカウントとユーザの管理
- EC2インスタンスの管理
- EBSボリュームの管理
- EC2インスタンス・EBSボリュームのバックアップ管理
- 課金管理
- 自動検知
- テンプレート

これら追加機能を『クラウド管理機能』と呼びます。

## 2.4 用語

本ドキュメントで使用する用語を説明します。

表2-1 用語一覧

用語	説明
クラウドサービス	インターネットを通じてサーバやストレージを提供するサービス。（例：AWS、Cloudn、Windows Azure 等）
リージョン	AWSの各リソースが配置される地域。
アベイラビリティゾーン	リージョン内にある複数のデータセンタ。
AWSアカウント	AWSの各リソースにアクセスするためのアカウント。
IAMユーザ	AWSの各リソースへのアクセス可否を設定することができる、アカウント内のユーザ。
EC2インスタンス	AWSにおける仮想サーバ。
EBSボリューム	AWSにおけるストレージ。EC2インスタンスにアタッチ/マウントして使用する。
セキュリティグループ	AWSにおける仮想ファイアウォール。

# 3 セットアップ

## 3.1 インストール

Hinemos クラウド管理オプションを利用する前に、前提条件にある対象のHinemosクライアント、Hinemosマネージャ、Hinemosエージェントを用意する必要があります。インストール方法は、Hinemosインストールマニュアルを参照して下さい。

Hinemos クラウド管理オプションのパッケージ一覧は下記の2種類です。

- com.clustercontrol.cloud\_1.0.x.zip
- Cloud\_manager-1.0.x.tar.gz

クラウド管理オプションインストール概要は下記の通りです。

- Hinemosクライアントにクラウド管理オプションプラグインを追加(com.clustercontrol.Cloud\_client-1.0.x.zip)
- Hinemosマネージャにクラウド管理オプションモジュールを追加(Cloud\_manager-1.0.x.tar.gz)
- Hinemosエージェントは変更なし

### 3.1.1 前提条件

Hinemos クラウド管理オプション1.0.xの利用には、以下のパッケージがインストールされている必要があります。

- Hinemosクライアント4.0.x (4.0.2以降)
- Hinemosマネージャ4.0.x (4.0.2以降)

また、クラウド管理オプション1.0.x Standard for AWS を利用する際には、HinemosマネージャからAWSのAPIに対してHTTP通信を行います。そのため、Hinemosマネージャがインターネットに接続できる必要があります。

### 3.1.2 Hinemosクライアント

Hinemosクライアントにクラウド管理オプションプラグインを追加する方法は下記の通りです。

1. Hinemosクライアントを停止します。
2. com.clustercontrol.cloud\_1.0.0.zip を解凍(すべて展開)し、Installer\_JP.bat または Installer\_EN.bat を実行します。解凍(すべて展開)せずに実行するとインストールに失敗します。
3. クラウド機能拡張のダイアログが表示されるので、Hinemosのバージョンを入力します。

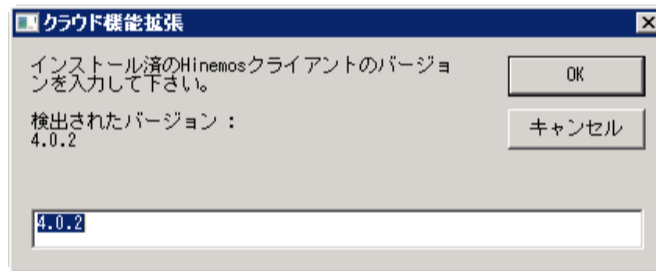


図3-1 クライアントインストーラ

インストール後に、「インストールが成功しました。」というダイアログを確認して下さい。

4. 【Hinemosクライアントインストールディレクトリ】\client\_clean\_start.vbs ※ を実行し、Hinemosクライアントのパーспекティブ一覧から、クラウド管理パーспекティブが選択可能であることを確認します。

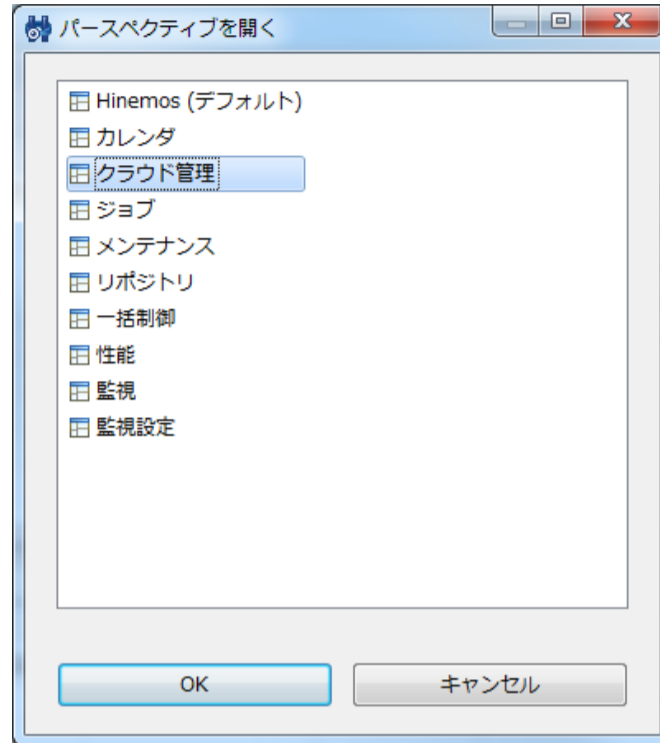


図3-2 パーспекティブ一覧 (クラウド管理パーспекティブ)

インストーラーを利用しない場合は、下記手順でインストールして下さい。

1. Hinemosクライアントを停止します。
2. com.clustercontrol.cloud\_1.0.0.zip を解凍(すべて展開)し、 **plugins\com.clustercontrol.cloud\_1.0.x** を【Hinemosクライアントインストールディレクトリ】\eclipse-rcp\plugins に配置して下さい。配置後、【Hinemosクライアントインストールディレクトリ】\eclipse-rcp\plugins\com.clustercontrol.cloud\_1.0.x となっている事を確認して下さい。

※ 初回起動の時のみclient\_clean\_start.vbsを実行してください。2回目以降は通常起動で構いません。

### 3.1.3 Hinemosマネージャ

Hinemosマネージャにクラウド管理オプションモジュールを追加する方法は下記の通りです。

1. モジュールパッケージの解凍

Cloud\_manager-1.0.x.tar.gz を適当なディレクトリに解凍します。（本書では、解凍先ディレクトリを"/tmp"として説明します。別のディレクトリで作業する場合は適宜読み替えてください。）

```
# cd /tmp
# tar xzvf Cloud_manager-1.0.x.tar.gz
```

2. Hinemosマネージャの停止

Hinemos JBossを停止します。Hinemos PostgreSQLは起動している必要があります。Hinemos JBossの停止方法の一例は下記となります。詳細はHinemosインストールマニュアルを参照してください。

```
# /opt/hinemos/bin/jboss_stop.sh
waiting for jboss to stop...
Shutdown message has been posted to the server.
Server shutdown may take a while - check logfiles for completion
...done
jboss stopped
```



### 3. インストールスクリプト実行

インストールスクリプト `cloud_install_JP.sh` または `cloud_install_EN.sh` を実行します。

```
# cd /tmp/Cloud_Manager-1.0.x
# ./cloud_install_JP.sh
...(省略)...
install succeeded !
```

上記のように、「install succeeded !」と表示されている事を確認します。

Hinemos PostgreSQLが停止している場合や、インストール権限がない場合などは失敗します。インストールスクリプトの実行ログを再度確認してください。失敗した場合は、後述のアンインストールスクリプトを実行した後、再度インストールスクリプトを実行してください。

### 4. Hinemosマネージャの起動

Hinemos JBossを起動します。

```
# /opt/hinemos/bin/jboss_start.sh
waiting for jboss to start...
.....done
jboss started
```

## 3.1.4 Hinemosエージェント

仮想マシン上でジョブを実行したい場合や、ログファイル監視やカスタム監視を行いたい場合は、仮想マシンにHinemosエージェントをインストールして下さい。ジョブ機能、ログファイル監視機能、カスタム監視機能は通常の物理サーバと同様の設定で使用可能です。

ジョブやログファイル監視やカスタム監視の必要がない場合、Hinemosエージェントは必要ありません。

プロセス監視や一部のリソース監視については、HinemosマネージャはSNMPプロトコルで情報を取得します。そのため、監視対象ではsnmpd等が動作している必要があります。セットアップ等はHinemosインストールマニュアル、Hinemos管理者ガイドを参照して下さい。

## 3.2 アンインストール

クラウド管理オプションのアンインストールは、HinemosクライアントとHinemosマネージャで実施する必要があります。

### 3.2.1 設定の変更

アンインストールの前に、クラウド管理オプションに関する設定を、下記の手順により変更・削除する必要があります。

- 仮想マシンの自動検知機能をOFF  
/opt/hinemos/etc/hinemos.propertiesに下記を追記します。  
hinemos.cloud.autoupdate.interval=0

### 3.2.2 Hinemosクライアント

Hinemosクライアントからクラウド管理オプションプラグインを削除する方法は下記の通りです。

- Hinemosクライアントを停止します。
- Hinemosクライアントのpluginsフォルダからcom.clustercontrol.cloud\_1.0.xを削除します。(パスは、【Hinemosクライアントインストールディレクトリ】\eclipse-rcp\plugins となります。)

com.clustercontrol.cloud\_1.0.xを削除せずに、Hinemosクライアントをアンインストールした場合は、com.clustercontrol.cloud\_1.0.xのみ削除されずに残ります。

### 3.2.3 Hinemosマネージャ

Hinemosマネージャからクラウド管理オプションモジュールを削除する方法は下記の通りです。

#### 1. モジュールパッケージの解凍

Cloud\_manager-1.0.x.tar.gz を適当なディレクトリに解凍します。（本書では、解凍先ディレクトリを"/tmp"として説明します。別のディレクトリで作業する場合は適宜読み替えてください。）

```
# cd /tmp
# tar xzvf Cloud_manager-1.0.x.tar.gz
```

#### 2. Hinemosマネージャの停止

Hinemos JBossを停止します。Hinemos PostgreSQLは起動させたままにする必要があります。

```
# /opt/hinemos/bin/jboss_stop.sh
waiting for jboss to stop...
Shutdown message has been posted to the server.
Server shutdown may take a while - check logfiles for completion
...done
jboss stopped
```

#### 3. アンインストールスクリプト実行

アンインストールスクリプト **cloud\_uninstall.sh** を実行します。

```
# cd /tmp/Cloud_Manager-1.0.x
# ./cloud_uninstall.sh
...(省略)...
uninstall end
```

Hinemos PostgreSQLが停止している場合はアンインストールに失敗します。誤ってPostgreSQLを停止している時に、アンインストールスクリプトを実行した場合は、PostgreSQLを起動し、再度アンインストールスクリプトを実行して下さい。

削除権限がない場合は失敗します。（失敗メッセージは出ません。）そのため、

- ・ インストール時のユーザでアンインストールを実施する
- ・ rootユーザでアンインストールを実施する

といった方法を選択して下さい。

#### 4. Hinemosマネージャの起動

Hinemos JBossを起動します。

```
# /opt/hinemos/bin/jboss_start.sh
waiting for jboss to start...
.....done
jboss started
```

## 3.3 HTTPSの設定

Hinemos クラウド管理オプションでは、クラウドサービスのアクセスキー・シークレットキーを、Hinemosクライアント、Hinemosマネージャ間で受け渡します。

そのため、クラウド管理オプションを利用する場合、Hinemosクライアント、Hinemosマネージャ間において、HTTPSによる通信の暗号化をすることを推奨します。

HTTPS通信の利用には、Hinemosマネージャ、Hinemosクライアントで設定が必要となります。

詳細は以下のドキュメントを参照ください。

Hinemos ver4.0 管理者ガイド 第1.2版

11 Hinemosコンポーネント間接続

### 3.4 HTTP Proxyの設定

Hinemosクライアント、Hinemosマネージャ間、またはHinemosエージェント、Hinemosマネージャ間にHTTP Proxyサーバが存在する場合、Hinemosクライアント、Hinemosエージェントで設定が必要となります。

詳細は以下のドキュメントを参照ください。

Hinemos ver4.0 管理者ガイド 第1.2版

11 Hinemosコンポーネント間接続

## 4 ユーザ管理機能の拡張

ユーザ管理機能の拡張では、クラウド管理オプションにより新規に提供される機能のアクセス権を設定します。

クラウド管理オプションをインストールすることで、以下のアクセス権限をユーザ[作成・変更]ダイアログにて設定可能になります。

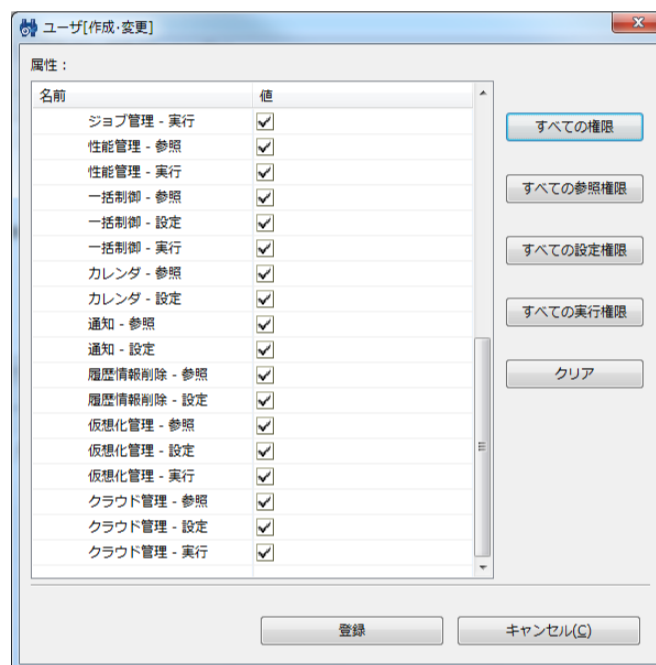


図4-1, ユーザ[作成・変更]ダイアログ(hinemosユーザデフォルト設定)

表3-1 クラウド管理機能の権限一覧

権限名	説明
クラウド管理－参照	クラウド管理機能で設定した情報の参照権限
クラウド管理－設定	クラウド管理機能に関する設定権限
クラウド管理－実行	クラウド管理機能のアクション実行権限

Hinemosのデフォルトの管理者ユーザ『hinemos』の各権限の初期値は全て「有効」です。

アクセス権限と機能の関係は各機能の章で説明します。

(クラウド管理オプションが提供する全ての機能において、リポジトリ参照 権限は必須です。各機能で必要となるアクセス権限の表では リポジトリ参照 権限については省略しています。)

## 5 リージョンとアベイラビリティゾーンの管理

### 5.1 機能概要

クラウド管理オプションでは、AWSのリージョン及びアベイラビリティゾーンを、スコープツリーで表現します。リージョンのスコープ配下に、複数のアベイラビリティゾーンのスコープが配置されます。

## 5.2 画面構成

### 5.2.1 クラウド[スコープ]ビュー

このビューでは、AWSのリージョン、アベイラビリティゾーンが、スコープツリーで表示されます。

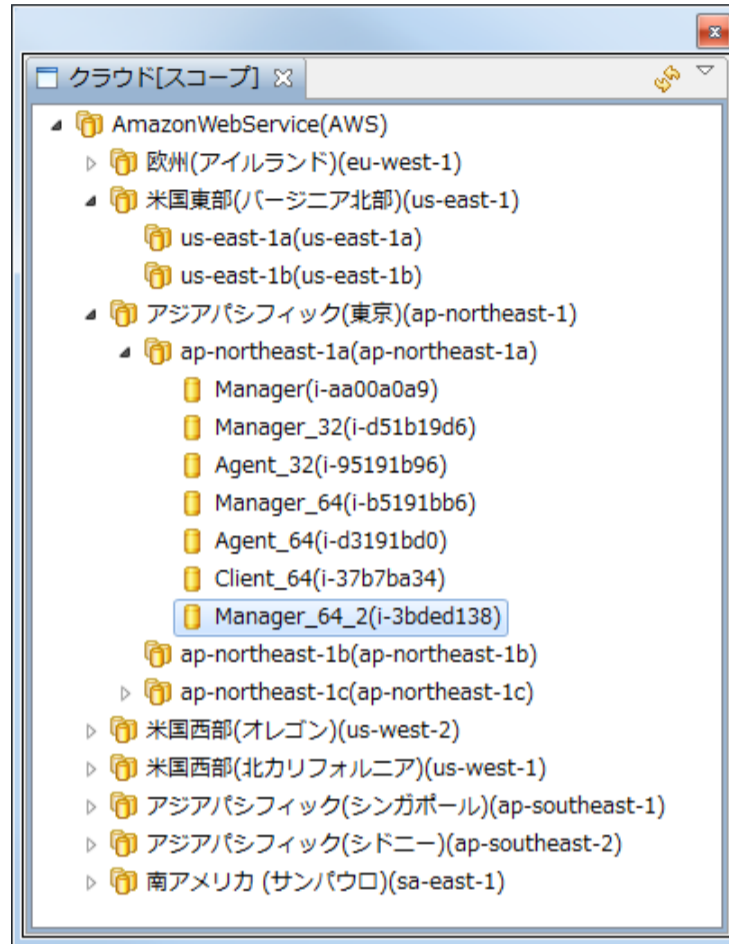



図5-1 クラウド[スコープ]ビュー

表5-1, ツールバー

アイコン	ボタン名	説明
	更新	クラウド[スコープ]ビューを更新します。

## 5.3 アクセス権

リージョンとアベイラビリティゾーンの管理で必要となるアクセス権限は以下の通りです。

表4-3, アクセス権

ビュー/ダイアログ名	アクション名	必須権限
クラウド[スコープ]ビュー	更新	—

## 6 AWSアカウントとユーザの管理

### 6.1 機能概要

クラウド管理オプションの機能を使用するためには、AWSアカウントまたはIAMユーザと、Hinemosのユーザを紐付ける必要があります。AWSアカウントまたはIAMユーザと、Hinemosのユーザは1対1で紐付けます。

### 6.2 画面構成

#### 6.2.1 クラウド[ユーザ]ビュー

このビューでは、AWSアカウント、IAMユーザが、ツリー形式で表示されます。

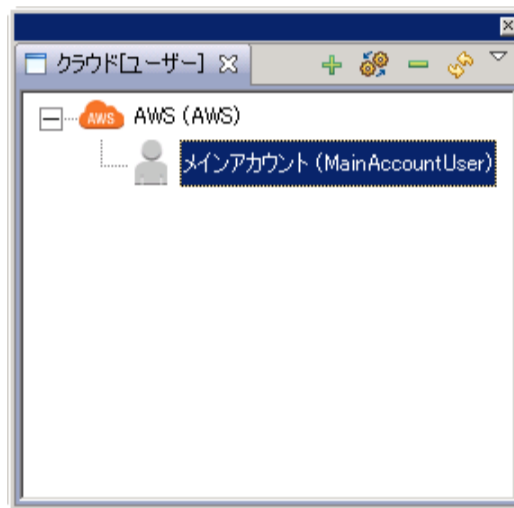


図6-1 クラウド[ユーザ]ビュー

表6-1, ツールバー

アイコン	ボタン名	説明
+	登録	AWSアカウントまたはIAMユーザを登録します。
⚙️	変更	登録済みのAWSアカウントまたはIAMユーザを変更します。
-	解除	登録済みのAWSアカウントまたはIAMユーザを解除します。
🔄	更新	クラウド[ユーザ]ビューを更新します。

#### 6.2.2 クラウド[ユーザ詳細]ビュー

このビューでは、クラウド[ユーザ]ビューで選択したAWSアカウント、IAMユーザの詳細が表示されます。AWSアカウントを選択した場合、その配下のIAMユーザも同時に表示されます。

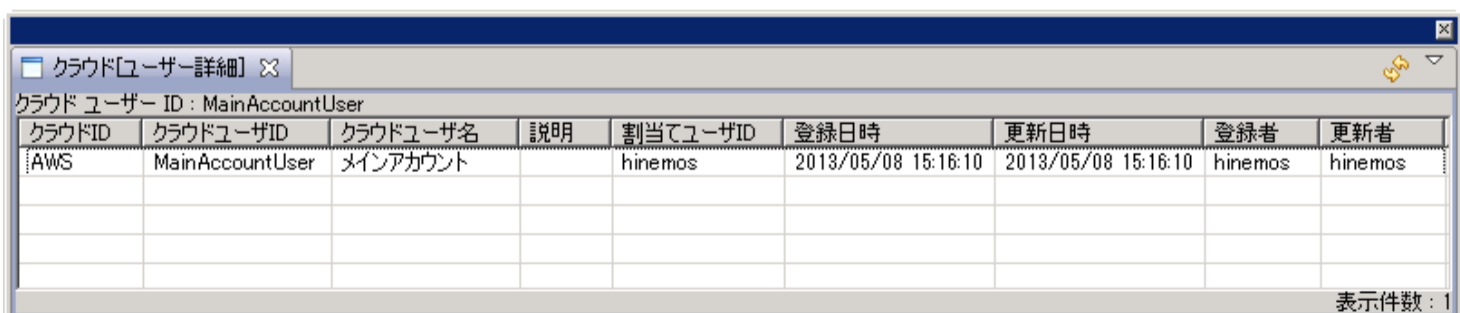



図6-2 クラウド[ユーザ詳細]ビュー

表6-2 ツールバー

アイコン	ボタン名	説明
	更新	クラウド[ユーザ詳細]ビューを更新します。

## 6.3 アクセス権

AWSアカウントとユーザの管理で必要となるアクセス権限は以下の通りです。

表6-3, アクセス権

ビュー/ダイアログ名	アクション名	必須権限
クラウド[ユーザ]ビュー	登録	クラウド管理-参照 クラウド管理-設定
クラウド[ユーザ]ビュー	変更	クラウド管理-参照 クラウド管理-設定
クラウド[ユーザ]ビュー	解除	クラウド管理-参照 クラウド管理-設定
クラウド[ユーザ]ビュー	更新	クラウド管理-参照
クラウド[ユーザ詳細]ビュー	更新	クラウド管理-参照

## 6.4 AWSアカウント・IAMユーザの作成

AWSアカウント、IAMユーザは、Hinemosから作成することはできません。クラウド管理オプション利用の前に、AWS Management Console等を用いてあらかじめAWSアカウント、IAMユーザを作成しておく必要があります。

## 6.5 Hinemosユーザの紐付け

- クラウド[ユーザ]ビューの『登録』をクリックします。クラウド[アカウント登録・変更]ダイアログが表示されます。  
全てのHinemosユーザがAWSアカウント、IAMユーザに紐づけられている場合、クラウド[アカウント登録・変更]ダイアログは表示されません。
- 以下の項目を設定します。
  - クラウドID  
クラウド管理オプション1.0.xでは、AWS固定です。
  - クラウドユーザID  
クラウドユーザIDをテキストで入力します。AWSアカウント、IAMユーザを識別するためのIDとして用いられます。Hinemos内でのIDであり、AWSのアカウント・IAMユーザ名とは直接関係ありません。
  - クラウドユーザ名  
クラウドユーザ名をテキストで入力します。Hinemos内でのユーザ名であり、AWSのアカウント・IAMユーザ名とは直接関係ありません。
  - 説明  
クラウドユーザの説明をテキストで入力します。
  - アクセスキー  
AWSアカウントまたはIAMユーザのアクセスキーIDをテキストで入力します。 ※
  - シークレットキー  
AWSアカウントまたはIAMユーザのシークレットアクセスキーをテキストで入力します。 ※
  - 割り当てユーザID  
AWSアカウントまたはIAMユーザに紐付けるHinemosユーザを選択します。未割当のHinemosユーザのみ表示されます。
- OKボタンをクリックします。クラウド[ユーザ]ビューのツリーに、作成したユーザが追加されます。

※ アクセスキーID、シークレットアクセスキーは、AWSのMyAccount（セキュリティ証明書）から取得可能です。

## 7 EC2インスタンスの管理

### 7.1 機能概要

EC2インスタンスを、Hinemosから管理することができます。EC2インスタンス一覧の表示、EC2インスタンスの「作成」、「起動」、「停止」、「削除」、EBSボリュームの「アタッチ」、「デタッチ」が利用できます。

### 7.2 画面構成

#### 7.2.1 クラウド[インスタンス]ビュー

このビューではHinemosが認識しているクラウド上のインスタンスを一覧表示します。

ファミリーID	ファミリー名	インスタンスID	インスタンス名	プラットフォーム	クラウドID	クラウドユーザID	リージョン	アベイ
i-431ed041	EC2-Gateway<...	i-431ed041	EC2-Gateway<...	LINUX	AWS	MainAccountUser	アジアパシフィック(...)	ap-ni
i-4d28e64f	ip-10-0-0-85.ap...	i-4d28e64f	VPC0-Gateway<...	LINUX	AWS	MainAccountUser	アジアパシフィック(...)	ap-ni
i-bf15dcdbd	ip-10-0-0-230.a...	i-bf15dcdbd	VPC0-Manager4...	LINUX	AWS	MainAccountUser	アジアパシフィック(...)	ap-ni
i-c938f1cb	ip-10-0-0-207.a...	i-c938f1cb	VPC0-Client402...	WINDOWS	AWS	MainAccountUser	アジアパシフィック(...)	ap-ni
i-0336fc01	ip-10-1-0-130.a...	i-0336fc01	VPC1-Proxy	LINUX	AWS	MainAccountUser	アジアパシフィック(...)	ap-ni
i-42963440	ip-10-0-0-140.a...	i-42963440	VPC0-マニュアル...	LINUX	AWS	MainAccountUser	アジアパシフィック(...)	ap-ni
FID_template1	FNAME_templat...	i-3e67df3c	FNAME_templat...	LINUX	AWS	MainAccountUser	アジアパシフィック(...)	ap-ni
FID_template2	FNAME_templat...	i-9458e096	FNAME_templat...	LINUX	AWS	MainAccountUser	アジアパシフィック(...)	ap-ni

図7-1 クラウド[インスタンス]ビュー

表6-1, ツールバー

アイコン	ボタン名	説明
	ノード登録解除	AWS上で既に削除済のEC2インスタンスを、Hinemosから削除します。リポジトリ上のノード情報は削除しません。
	ノード登録	AWS上で既に作成済のEC2インスタンスを、Hinemosに登録します。リポジトリにノード情報が登録されます。
	バックアップ	EC2インスタンスのバックアップを取得します。
	停止	EC2インスタンスを停止します。
	起動	EC2インスタンスを起動します。
	作成	EC2インスタンスを作成し、併せてリポジトリにノード情報を登録します。
	削除	EC2インスタンスを削除し、併せてリポジトリからノード情報を削除します。
	アタッチ	EC2インスタンスにEBSボリュームをアタッチします。
	デタッチ	EC2インスタンスからEBSボリュームをデタッチします。
	更新	クラウド[インスタンス]ビューを更新します。
	パブリックDNSをクリップボードへコピー	EC2インスタンスのパブリックDNSをクリップボードにコピーします。
	Windowsパスワードの取得	WindowsのEC2インスタンスのパスワードを取得します。

## 7.3 アクセス権

EC2インスタンスの管理で必要となるアクセス権限は以下の通りです。

表6-2, アクセス権

ビュー/ダイアログ名	アクション名	必須権限
クラウド[インスタンス]ビュー	ノード登録解除	クラウド管理-参照 クラウド管理-設定
クラウド[インスタンス]ビュー	ノード登録	クラウド管理-参照 クラウド管理-設定
クラウド[インスタンス]ビュー	バックアップ	クラウド管理-参照 クラウド管理-実行
クラウド[インスタンス]ビュー	停止	クラウド管理-参照 クラウド管理-実行 ジョブ管理-参照 (テンプレートを使ったインスタンスの場合、さらに ジョブ管理-更新 ジョブ管理-実行 が必要)
クラウド[インスタンス]ビュー	起動	クラウド管理-参照 クラウド管理-実行 ジョブ管理-参照 (テンプレートを使ったインスタンスの場合、さらに ジョブ管理-更新 ジョブ管理-実行 が必要)
クラウド[インスタンス]ビュー	作成	クラウド管理-参照 クラウド管理-実行 クラウド管理-設定
クラウド[インスタンス]ビュー	削除	クラウド管理-参照 クラウド管理-実行
クラウド[インスタンス]ビュー	アタッチ	クラウド管理-参照 クラウド管理-実行
クラウド[インスタンス]ビュー	デタッチ	クラウド管理-参照 クラウド管理-実行
クラウド[インスタンス]ビュー	更新	クラウド管理-参照
クラウド[インスタンス]ビュー	パブリックDNSをクリップボードへコピー	クラウド管理-参照
クラウド[インスタンス]ビュー	Windowsパスワードの取得	クラウド管理-参照 クラウド管理-実行

## 7.4 EC2インスタンスの作成

1. クラウド[インスタンス]ビューの『作成』をクリックします。クラウド[インスタンス作成]ダイアログが表示されます。



2. 以下の項目を設定します。

- ファシリティID  
EC2インスタンスに該当するノードのファシリティIDをテキストで入力します。
- ファシリティ名  
EC2インスタンスに該当するノードのファシリティ名をテキストで入力します。
- 説明  
EC2インスタンスに該当するノードの説明をテキストで入力します。
- ノード名  
EC2インスタンスに該当するノードのノード名をテキストで入力します。
- リージョン  
EC2インスタンスを作成するリージョンを選択します。
- アベイラビリティゾーン  
EC2インスタンスを作成するアベイラビリティゾーンを選択します。
- VPC内から起動  
インスタンスをVPC内に配置する場合に選択します。
- サブネット  
VPCを使用する場合に、配置先のサブネットを選択します。
- キーペア  
EC2インスタンスにログインするためのキーペアを選択します。 キーペアはあらかじめ選択したリージョンにおいて作成されている必要があります。
- AMI  
EC2インスタンスのもととなるAMIを選択します。『参照』をクリックしてクラウド[AMI選択]ダイアログを表示し、『フィルタ』に選択したいAMI名を中間一致で入力し、『検索』をクリックします。指定したリージョンで有効なAMIが『AMIリスト』に表示されるため、選択して『OK』をクリックします。

「テンプレートを使用」・「テンプレート」については、[テンプレートを使用したインスタンス作成](#) を参照してください。

さらに詳細な設定をしたい場合、詳細設定ボタンをクリックします。 詳細設定では、以下の内容が設定可能です。

### インスタンス詳細

- ・ インスタンス種別  
EC2インスタンスのインスタンス種別を選択します。
- ・ シャットダウン時動作  
EC2インスタンスをシャットダウンした時の動作を選択します。
- ・ 詳細モニタリング  
CloudWatchによる詳細な監視をする場合にチェックします。
- ・ 削除終了の防止  
EC2インスタンスの削除をしない場合にチェックします。
- ・ EBS最適化インスタンス  
EBSボリュームの性能を向上させたい場合にチェックします。

### タグ設定

EC2インスタンスのタグを設定します。

### セキュリティ設定

セキュリティグループを選択します。

### ルートデバイス設定

- ・ ボリュームサイズ  
ルートボリュームのサイズを入力します。
- ・ ボリュームタイプ  
ルートボリュームのタイプを選択します。
- ・ IOPS  
ルートボリュームのIOPSを入力します。
- ・ 終了時削除  
EC2インスタンス削除時にルートボリュームも同時に削除する場合にチェックします。

3. OKボタンをクリックします。クラウド[インスタンス]ビューに、作成したEC2インスタンスが追加されます。

## 7.5 EC2インスタンスの削除

1. クラウド[インスタンス]ビューに表示されるインスタンス一覧から削除対象を選択し、『削除』をクリックします。

## 7.6 EC2インスタンスの起動

1. クラウド[インスタンス]ビューに表示されるインスタンス一覧から 状態が「停止済」のEC2インスタンスを選択し、『起動』をクリックします。 ShiftまたはCtrlを押しながらクリックすることで、複数行の選択が可能です。

## 7.7 EC2インスタンスの停止

1. クラウド[インスタンス]ビューに表示されるインスタンス一覧から 状態が「起動済」のEC2インスタンスを選択し、『停止』をクリックします。 ShiftまたはCtrlを押しながらクリックすることで、複数行の選択が可能です。

## 7.8 EC2インスタンスのバックアップ

1. クラウド[インスタンス]ビューに表示されるインスタンス一覧から バックアップを取得したいEC2インスタンスを選択し、『バックアップ』をクリックします。
2. 以下の項目を設定します。
  - ・ イメージ名  
取得するバックアップのイメージ名をテキストで入力します。
  - ・ 説明  
取得するバックアップの説明をテキストで入力します。
  - ・ 再起動しない  
起動中のEC2インスタンスのバックアップを取得する際に、再起動を行わない場合を選択します。
  - ・ 追加ボリュームを含める  
このインスタンスにアタッチされている他のEBSボリュームについてもバックアップを取得する場合にチェックします。
3. OKボタンをクリックします。クラウド[インスタンスバックアップ]に該当するバックアップが作成されます。 ※

※ EC2インスタンスのバックアップは、AWS上ではAMIを作成する操作を行っています。

## 7.9 初期パスワードの表示 (Windows)

1. クラウド[インスタンス]ビューに表示されるインスタンス一覧から WindowsのEC2インスタンスを選択し、『Windowsパスワードの取得』をクリックします。
2. キーペアを選択すると、Windowsのログインパスワードが表示されます。

## 7.10 EBSボリュームのアタッチ

1. クラウド[インスタンス]ビューに表示されるインスタンス一覧から EBSボリュームをアタッチしたいEC2インスタンスを選択し、『アタッチ』をクリックします。
2. 以下の項目を設定します。
  - ・ デバイス  
アタッチ先のデバイスを選択します。  
アタッチするEBSボリュームを、一覧から選択します。
3. OKボタンをクリックします。EC2インスタンスに、選択したEBSボリュームがアタッチされます。

## 7.11 EBSボリュームのデタッチ

1. クラウド[インスタンス]ビューに表示されるインスタンス一覧から EBSボリュームをデタッチしたいEC2インスタンスを選択し、『デタッチ』をクリックします。
2. デタッチするEBSボリュームを、一覧から選択します。
3. OKボタンをクリックします。EC2インスタンスから、選択したEBSボリュームがデタッチされます。

## 7.12 未登録EC2インスタンスのノード登録

Hinemosのリポジトリに登録されていないEC2インスタンスを、リポジトリに登録します。

1. クラウド[インスタンス]ビューに表示されるインスタンス一覧から 登録状態が「未登録」のEC2インスタンスを選択し、『ノード登録』をクリックします。

2. 以下の項目を設定します。

- ・ ファシリティID

EC2インスタンスに該当するノードのファシリティIDをテキストで入力します。

- ・ 同じIDのノードを上書き

リポジトリに同様のファシリティIDのノードが存在した場合、そのノードの情報にEC2インスタンスの情報を上書きします。

- ・ ファシリティ名

EC2インスタンスに該当するノードのファシリティ名をテキストで入力します。

- ・ 説明

EC2インスタンスに該当するノードの説明をテキストで入力します。

- ・ ノード名

EC2インスタンスに該当するノードのノード名をテキストで入力します。

3. OKボタンをクリックします。リポジトリにEC2インスタンスに該当するノードが登録されます。

## 7.13 存在しないEC2インスタンスの登録解除

Hinemosに登録されているEC2インスタンスがAWSに存在しない場合、そのインスタンスをHinemosから削除します。

1. クラウド[インスタンス]ビューに表示されるインスタンス一覧から登録状態が「削除済み」のEC2インスタンスを選択し、『ノード登録解除』をクリックします。

## 8 EBSボリュームの管理

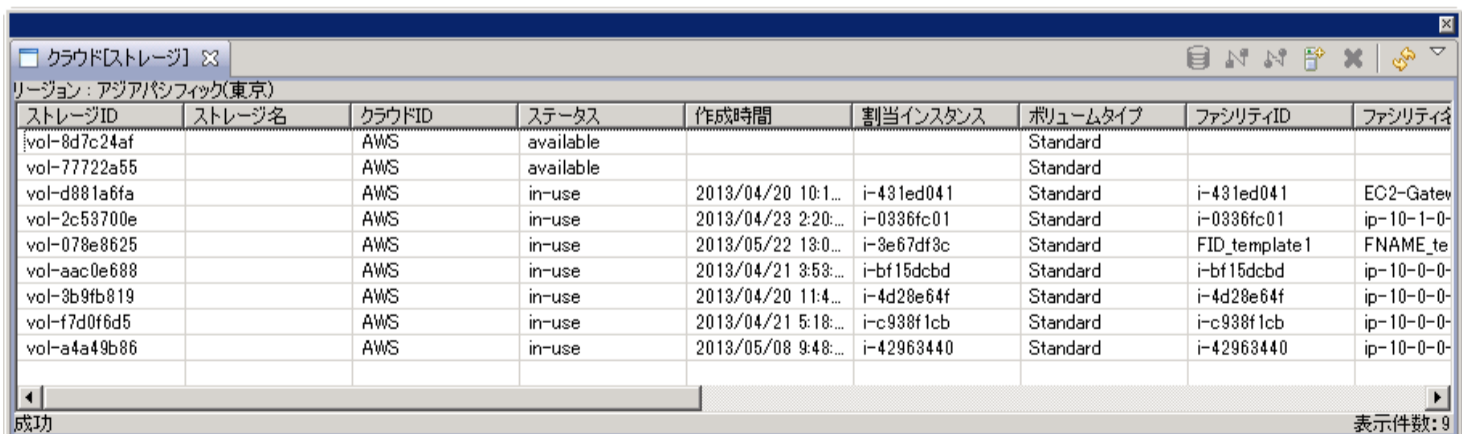
### 8.1 機能概要

EBSボリュームを、Hinemosから管理することができます。EBSボリューム一覧の表示、EBSボリュームの「作成」、「削除」、「アタッチ」、「デタッチ」が利用できます。

### 8.2 画面構成

#### 8.2.1 クラウド[ストレージ]ビュー

このビューではHinemosが認識しているクラウド上のストレージを一覧表示します。



ストレージID	ストレージ名	クラウドID	ステータス	作成時間	割当インスタンス	ボリュームタイプ	ファシリティID	ファシリティ名
vol-8d7c24af		AWS	available			Standard		
vol-77722a55		AWS	available			Standard		
vol-d881a6fa		AWS	in-use	2013/04/20 10:1...	i-431ed041	Standard	i-431ed041	EC2-Gatev
vol-2c53700e		AWS	in-use	2013/04/23 2:20...	i-0336fc01	Standard	i-0336fc01	ip-10-1-0-
vol-078e8625		AWS	in-use	2013/05/22 13:0...	i-3e67df3c	Standard	FID_template1	FNAME_te
vol-aac0e688		AWS	in-use	2013/04/21 3:53...	i-bf15dcdb	Standard	i-bf15dcdb	ip-10-0-0-
vol-3b9fb819		AWS	in-use	2013/04/20 11:4...	i-4d28e64f	Standard	i-4d28e64f	ip-10-0-0-
vol-f7d0f6d5		AWS	in-use	2013/04/21 5:18...	i-c938f1cb	Standard	i-c938f1cb	ip-10-0-0-
vol-a4a49b86		AWS	in-use	2013/05/08 9:48...	i-42963440	Standard	i-42963440	ip-10-0-0-

図8-1 クラウド[ストレージ]ビュー

表6-1, ツールバー

アイコン	ボタン名	説明
	バックアップ	EBSボリュームのバックアップを取得します。
	アタッチ	EC2インスタンスにEBSボリュームをアタッチします。
	デタッチ	EC2インスタンスからEBSボリュームをデタッチします。
	作成	EBSボリュームを作成します。
	削除	EBSボリュームを削除します。
	更新	クラウド[ストレージ]ビューを更新します。

## 8.3 アクセス権

EBSボリュームの管理で必要となるアクセス権限は以下の通りです。

表6-2, アクセス権

ビュー/ダイアログ名	アクション名	必須権限
クラウド[ストレージ]ビュー	バックアップ	クラウド管理-参照 クラウド管理-実行
クラウド[ストレージ]ビュー	アタッチ	クラウド管理-参照 クラウド管理-実行
クラウド[ストレージ]ビュー	デタッチ	クラウド管理-参照 クラウド管理-実行
クラウド[ストレージ]ビュー	作成	クラウド管理-参照 クラウド管理-実行
クラウド[ストレージ]ビュー	削除	クラウド管理-参照 クラウド管理-実行
クラウド[ストレージ]ビュー	更新	クラウド管理-参照

## 8.4 EBSボリュームの作成

- クラウド[ストレージ]ビューの『作成』をクリックします。クラウド[ストレージ作成]ダイアログが表示されます。
- 以下の項目を設定します。
  - 名前  
ストレージの名前をテキストで入力します。EBSボリュームのタグに、Nameキーの値として設定されます。
  - ストレージサイズ  
EBSボリュームのサイズをGiBまたはTiBの単位で数値で入力します。
  - リージョン  
EBSボリュームを作成するリージョンを選択します。
  - アベイラビリティゾーン  
EBSボリュームを作成するアベイラビリティゾーンを選択します。
  - スナップショット  
スナップショットからEBSボリュームを作成する場合、スナップショットの一覧から選択します。
  - ボリューム種別  
EBSボリュームの種別を選択します。
  - IOPS  
EBSボリュームのIOPSを入力します。IOPSはボリュームサイズの20倍以下である必要があります。

## 8.5 EBSボリュームの削除

1. クラウド[ストレージ]ビューに表示されるストレージ一覧から削除対象を選択し、『削除』をクリックします。

## 8.6 EBSボリュームのタッチ

1. クラウド[ストレージ]ビューに表示されるストレージ一覧から アタッチしたいEBSボリュームを選択し、『アタッチ』をクリックします。
2. 以下の項目を設定します。
  - ・ インスタンス  
アタッチ先のEC2インスタンスを選択します。
  - ・ デバイス  
アタッチ先のデバイスを選択します。
3. OKボタンをクリックします。選択したEC2インスタンスに、EBSボリュームがアタッチされます。

## 8.7 EBSボリュームのデタッチ

1. クラウド[ストレージ]ビューに表示されるストレージ一覧から デタッチしたいEBSボリュームを選択し、『デタッチ』をクリックします。

## 8.8 EBSボリュームのバックアップ

1. クラウド[ストレージ]ビューに表示されるストレージ一覧から、バックアップを取得したいストレージを選択し、『バックアップ』をクリックします。
2. 以下の項目を設定します。
  - ・ スナップショット名  
取得するバックアップの名前をテキストで入力します。
  - ・ 説明  
取得するバックアップの説明をテキストで入力します。
3. OKボタンをクリックします。クラウド[ストレージバックアップ]に該当するバックアップが作成されます。 ※

※ EBSボリュームのバックアップは、AWS上ではSnapshotを作成する操作を行っています。

# 9 EC2インスタンス・EBSボリュームのバックアップ管理

## 9.1 機能概要

EC2インスタンスやEBSボリュームから取得したバックアップを、Hinemosから管理することができます。EC2インスタンス・EBSボリュームのバックアップ一覧の表示、バックアップからのリストア、バックアップの削除が利用できます。

## 9.2 画面構成

### 9.2.1 クラウド[インスタンスバックアップ]ビュー

このビューでは、クラウド[インスタンス]ビューで選択したインスタンスの、インスタンスバックアップが一覧で表示されます。

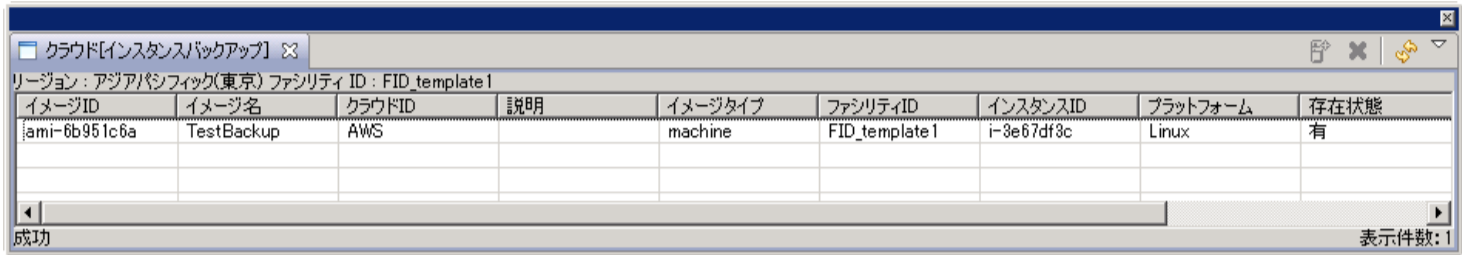


図9-1 クラウド[インスタンスバックアップ]ビュー

表9-1, ツールバー

アイコン	ボタン名	説明
	リストア	バックアップからインスタンスをリストアします。
	削除	EBSボリュームを削除します。
	更新	クラウド[ストレージ]ビューを更新します。

### 9.2.2 クラウド[ストレージバックアップ]ビュー

このビューでは、クラウド[ストレージ]ビューで選択したインスタンスの、ストレージバックアップが一覧で表示されます。



図9-2 クラウド[ストレージバックアップ]ビュー

表9-2, ツールバー

アイコン	ボタン名	説明
	リストア	EBSボリュームを作成します。
	削除	EBSボリュームを削除します。
	更新	クラウド[ストレージ]ビューを更新します。

## 9.3 アクセス権

バックアップ管理で必要となるアクセス権限は以下の通りです。

表9-3, アクセス権

ビュー/ダイアログ名	アクション名	必須権限
クラウド[インスタンスバックアップ]ビュー	リストア	クラウド管理-参照 クラウド管理-設定 クラウド管理-実行

クラウド[インスタンスバックアップ]ビュー	削除	クラウド管理－参照 クラウド管理－設定
クラウド[インスタンスバックアップ]ビュー	更新	クラウド管理－参照
クラウド[ストレージバックアップ]ビュー	リストア	クラウド管理－参照 クラウド管理－設定 クラウド管理－実行
クラウド[ストレージバックアップ]ビュー	削除	クラウド管理－参照 クラウド管理－設定
クラウド[ストレージバックアップ]ビュー	更新	クラウド管理－参照

## 9.4 EC2インスタンスのリストア

EC2インスタンスのリストアとは、[EC2インスタンスのバックアップ](#) でバックアップとして取得したAMIをもとにEC2インスタンスを起動し、既存のEC2インスタンスと置き換える操作です。

1. クラウド[インスタンスバックアップ]ビューに表示されるバックアップ一覧から リストアしたいバックアップイメージを選択し、『リストア』をクリックします。
2. リストアに必要な項目を設定します。項目の詳細は、[EC2インスタンスの作成](#) を参照ください。
3. OKボタンをクリックします。選択したバックアップをもとにしたインスタンスが作成されます。 ※

※ 先に動作していたインスタンスは、特に削除されることなくそのまま動作し続けます。

## 9.5 EBSボリュームのリストア

EBSボリュームのリストアとは、[EBSボリュームのバックアップ](#) でバックアップとして取得したSnapshotをもとに、EBSボリュームを作成し、既存のEBSボリュームと置き換える操作です。

1. クラウド[ストレージバックアップ]ビューに表示されるバックアップ一覧から リストアしたいバックアップイメージを選択し、『リストア』をクリックします。
2. リストアに必要な項目を設定します。項目の詳細は、[EBSボリュームの作成](#) を参照ください。
3. OKボタンをクリックします。選択したバックアップをもとにしたEBSストレージが作成されます。

# 10 課金管理

## 10.1 機能概要

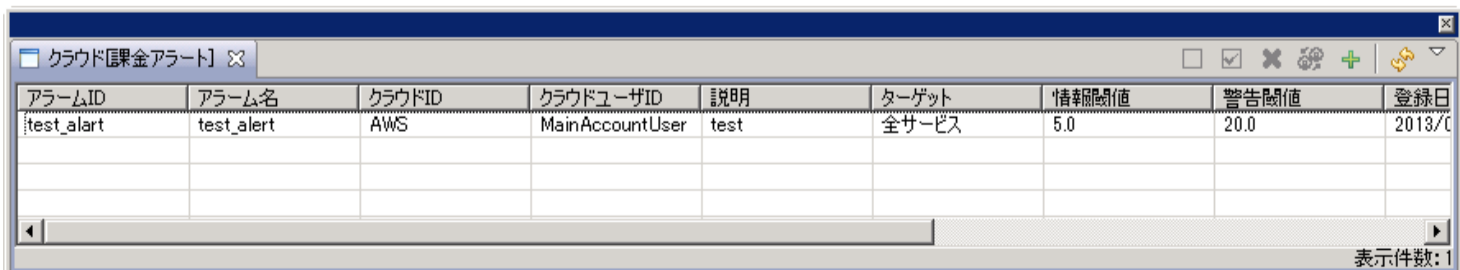
クラウドサービスの使用料を監視して、閾値を超えた場合にアラートをあげる機能です。毎時15分にクラウドサービスの使用料を監視し、アラートをあげます。 ※

※ 現在のAWSにおいては、使用料の情報は6時間ごとに更新されます。

## 10.2 画面構成

### 10.2.1 クラウド[課金アラート]ビュー

このビューでは、登録された課金アラートが一覧で表示されます。



アラームID	アラーム名	クラウドID	クラウドユーザID	説明	ターゲット	情報閾値	警告閾値	登録日
test_alert	test_alert	AWS	MainAccountUser	test	全サービス	5.0	20.0	2013/0

表示件数: 1



図10-1 クラウド[課金アラート]ビュー

表9-1, ツールバー

アイコン	ボタン名	説明
+	作成	課金アラート設定を作成します。
	変更	登録済みの課金アラート設定を変更します。
	削除	登録済みの課金アラート設定を削除します。
	有効	登録済みの課金アラート設定を有効にします。
	無効	登録済みの課金アラート設定を無効にします。
	更新	クラウド[課金アラート]ビューを更新します。

## 10.3 アクセス権

課金アラートで必要となるアクセス権限は以下の通りです。

表9-3, アクセス権

ビュー/ダイアログ名	アクション名	必須権限
クラウド[課金アラート]ビュー	作成	クラウド管理-参照 クラウド管理-設定 通知-参照
クラウド[課金アラート]ビュー	変更	クラウド管理-参照 クラウド管理-設定 通知-参照
クラウド[課金アラート]ビュー	削除	クラウド管理-参照 クラウド管理-設定
クラウド[課金アラート]ビュー	有効	クラウド管理-参照 クラウド管理-設定
クラウド[課金アラート]ビュー	無効	クラウド管理-参照 クラウド管理-設定
クラウド[課金アラート]ビュー	更新	クラウド管理-参照

## 10.4 課金アラートの作成

1. クラウド[課金アラート]ビューの『作成』をクリックします。

2. クラウド[課金アラート作成・変更] ダイアログの以下の項目を設定します。

- アラームID  
課金アラートをし濃い別するための一意なIDをテキストで入力します。
- アラーム名  
課金アラートにつける名前をテキストで入力します。
- 説明  
課金アラートに関する説明をテキストで入力します。
- ターゲット  
監視対象とするサービスを一覧から選択します。
- 判定：情報閾値  
警告としてアラートをあげる最低値を数値で入力します。単位はドルです。
- 判定：警告閾値  
異常としてアラートをあげる最低値を数値で入力します。単位はドルです。
- 通知ID  
「選択」をクリックして、通知[一覧]から通知先を選択します。
- この設定を有効にする  
このアラート設定を有効とする場合に選択します。

## 10.5 課金アラートの変更

1. クラウド[課金アラート]ビューで、変更したい課金アラート設定を選択し、『変更』をクリックします。
2. 変更内容を設定します。設定項目については [課金アラートの作成](#) を参照してください。

## 10.6 課金アラートの削除

1. クラウド[課金アラート]ビューで、削除したい課金アラート設定を選択し、『削除』をクリックします。

## 10.7 課金アラートの有効化

1. クラウド[課金アラート]ビューで、有効化したい課金アラート設定を選択し、『有効』をクリックします。

## 10.8 課金アラートの無効化

1. クラウド[課金アラート]ビューで、無効化したい課金アラート設定を選択し、『無効』をクリックします。

# 11 自動検知

## 11.1 機能概要

クラウド管理オプションを経由せずにクラウドサービスの状態が変更された場合に、Hinemos側で変更を検知してノード情報などに反映することができます。<sup>※</sup>

検知機能は定期的にクラウドサービスにアクセスし、変更を調査します。検知の間隔は /opt/hinemos/etc/hinemos.properties に定義されている `hinemos.cloud.autoupdate.interval` の値に従います。

```
hinemos.cloud.autoupdate.interval = 600000
```

更新間隔をミリ秒で指定します。この設定を反映するには、マネージャを再起動する必要があります。

※クラウドオプションを経由した操作でクラウド環境の状態を変更した場合には、自動検知の有効・無効にかかわらず、クラウドの状態がHinemos上に反映されます。

## 11.2 インスタンスの作成・削除検知

クラウド管理オプション以外からクラウドインスタンスを作成・削除した場合に、それらをHinemosが検知することができます。クラウドインスタンスの作成・削除を検知するか否か、また検知した場合にそれをどのようにHinemosに反映するかは、/opt/hinemos/etc/hinemos.properties の `hinemos.cloud.autoupdate.instance` と `hinemos.cloud.autoregist.instance` により変更します。

```
hinemos.cloud.autoupdate.instance = true
hinemos.cloud.autoregist.instance = true
```

`hinemos.cloud.autoupdate.instance` を有効にすることで、クラウド管理オプションを経由せずに作成・削除したインスタンスを自動的にクラウド管理オプションで検知するようになります。無効にした場合、こうしたインスタンスを検知することはありません。

`hinemos.cloud.autoregist.instance` を有効にすると、クラウド管理オプションを経由せずに作成・削除したインスタンスをクラウド管理オプションが検知した場合に、自動的にリポジトリのノードとして登録・ノード削除を行います。

`hinemos.cloud.autoupdate.instance`、`hinemos.cloud.autoregist.instance` 共にtrueの場合、新規に作成したインスタンスを検知すると、自動的にリポジトリに登録されます。リポジトリに登録される場合、そのファシリティIDは次のような優先順位で決定されます。

1. クラウドサービス上でのDNS名
2. 1の取得に失敗した場合、インスタンス名

クラウドサービス上のDNS名について、パブリックDNS名を採用するかプライベートDNS名を採用するかは、/opt/hinemos/etc/hinemos.properties の `hinemos.cloud.aws.node.ip` に従います。

```
hinemos.cloud.aws.node.ip = public
```

このパラメータを `public` とした場合はパブリックDNS名が、`private` とした場合はプライベートDNS名が採用されます。

これらの設定を反映するには、マネージャを再起動する必要があります。

また、新規に作成したインスタンスが自動的にリポジトリに登録される際に、以下に示すインスタンスのタグ情報に基づき、スコープへの自動割り当てが行われます。

- Key  
hinemosAssignScopeld
- Value  
スコープID (カンマ区切り)

## 11.3 インスタンスのIP更新検知

Hinemos以外からの操作でクラウド上のインスタンスのIPが変更された場合に、Hinemosがそれを検知してノード情報に反映することができます。

IPの変更を検知してノード情報に反映するか否かは、/opt/hinemos/etc/hinemos.properties の `hinemos.cloud.autoupdate.node` に従います。

```
hinemos.cloud.autoupdate.node = true
```

このパラメータを true とした場合、クラウドインスタンスのIPアドレスが変更された場合にその変更を検知します。インスタンスがノードとして登録されている場合には、ノードに登録されたIPアドレスを更新します。

設定を反映するには、マネージャを再起動する必要があります。

## 11.4 ストレージの作成・削除検知

クラウド管理オプション以外からクラウドストレージを作成・削除した場合に、Hinemosがそれらを検知することができます。

ストレージの作成・削除を検知するか否かは、`/opt/hinemos/etc/hinemos.properties` の `hinemos.cloud.autoupdate.storage` に従います。

```
hinemos.cloud.autoupdate.storage = true
```

このパラメータを true とした場合、クラウド管理オプションを経由せずに作成・削除されたストレージを、クラウド管理オプションが検知します。false とした場合には、クラウド管理オプションを経由せずに作成・削除されたストレージは検知することはありません。

設定を反映するには、マネージャを再起動する必要があります。

## 11.5 ストレージのアタッチ・デタッチ検知

クラウド管理オプション以外からクラウドストレージのアタッチ状態が変更された場合に、Hinemosがそれを検知してノード情報に反映することができます。

ストレージのアタッチ・デタッチを検知するか否かは、`/opt/hinemos/etc/hinemos.properties` の `hinemos.cloud.autoupdate.mount` に従います。

```
hinemos.cloud.autoupdate.mount = true
```

このパラメータを true とした場合、クラウド管理オプションを経由しないストレージ装置のアタッチ・デタッチについて、自動的に検知します。ノードとして登録されたクラウドインスタンスに対してストレージがアタッチされた場合、そのノードのデバイスとしてストレージ情報が追加されます。逆に、ノードとして登録されたクラウドインスタンスに対してストレージがデタッチされた場合、そのノードのデバイスから当該ストレージを削除します。

このパラメータを false とした場合、クラウド管理オプションを経由しないストレージ装置のアタッチ・デタッチについては、自動的に検知を行いません。

設定を反映するには、マネージャを再起動する必要があります。

# 12 テンプレート

## 12.1 機能概要

インスタンスの作成時、起動時、停止時に、Hinemosのジョブ管理機能を利用して任意のコマンドやスクリプトを実行することができます。

ジョブ管理機能の詳細については、以下のドキュメントを参照ください。

Hinemos ver4.0 ユーザマニュアル 第1.1版

9 ジョブ管理機能

テンプレート機能を利用することで、同様の環境を繰り返し作成することや、高度な環境設定を自動で行う等が実現できます。

また、実行スクリプトの引数を変更することで、EC2インスタンスごとに個別の設定をすることも可能です。

## 12.2 画面構成

### 12.2.1 クラウド[テンプレート]ビュー

このビューでは、テンプレートの一覧が表示されます。

テンプレートID	テンプレート名	イメージID	作成時テンプレ...	リージョン	登録日時	更新日時	登録者	更新者
template1	template1	ami-aa58d5ab	template-job-ne...	ap-northeast-1	2013/05/21 10:0...	2013/05/21 10:3...	hinemos	hinemos

図12-1 クラウド[テンプレート]ビュー

表12-1, ツールバー

アイコン	ボタン名	説明
	登録	AMIとジョブを指定して、テンプレートを登録します。
	変更	登録済みのテンプレートを変更します。
	削除	登録済みのテンプレートを削除します。
	更新	クラウド[テンプレート]ビューを更新します。
	テンプレートジョブ作成	テンプレートジョブを作成する簡易ジョブウィザードを開きます。
	インスタンス作成	テンプレートからEC2インスタンスを作成します。

## 12.3 アクセス権

テンプレートで必要となるアクセス権限は以下の通りです。

表12-2, アクセス権

ビュー/ダイアログ名	アクション名	必須権限
クラウド[テンプレート]ビュー	登録	クラウド管理-参照 クラウド管理-設定
クラウド[テンプレート]ビュー	変更	クラウド管理-参照 クラウド管理-設定
クラウド[テンプレート]ビュー	削除	クラウド管理-参照 クラウド管理-設定
クラウド[テンプレート]ビュー	テンプレートジョブ作成	ジョブ管理-参照 ジョブ管理-設定
クラウド[テンプレート]ビュー	インスタンス作成	クラウド管理-参照 クラウド管理-設定 ジョブ管理-参照 ジョブ管理-設定
クラウド[テンプレート]ビュー	更新	クラウド管理-参照

## 12.4 テンプレートで使われる用語

テンプレートで使用する用語を説明します。

表12-3 用語一覧

用語	説明
テンプレート	AMIのイメージIDと、テンプレートジョブのジョブIDの組み合わせ。
テンプレートジョブ	EC2インスタンスの作成時、起動時、停止時に実行するジョブ。
共通スクリプト	テンプレートジョブにおいて、共通して使用できるスクリプト。

## 12.5 テンプレート機能の動作要件

- テンプレートで使用するAMIにHinemosエージェント4.0.x (ver4.0.2以降) がインストール済み
- エージェントの接続先マネージャが適切に設定されている

エージェントの接続先は、Agent.properties に設定します。AMIにインストールされたHinemosエージェントの場合、接続先を以下のようにすることで 起動時に自動的にHinemosマネージャのIPアドレスを検出し、設定を書き換えます。

```
managerAddress=http://${ManagerIP}:8080/HinemosWS/
```

**\${ManagerIP}** は完全一致です。大文字・小文字の区別にご注意ください。また、この自動書き換えを行う場合には、Hinemosマネージャとテンプレートから起動するインスタンス間で以下の通信ができる必要があります。

- 接続元 : Hinemosマネージャ
- 接続先 : Hinemosエージェント (TCP 24005)

## 12.6 テンプレートジョブの作成

テンプレート機能で利用するジョブを作成します。テンプレート用ジョブ作成ウィザードで作成するジョブは、通常のジョブ管理機能のジョブとは異なり開始から終了まで分岐の無い、直列に実行するジョブとなります。

1. クラウド[テンプレート]ビューの『テンプレートジョブ作成』をクリックします。
2. クラウド[テンプレートジョブ作成] ダイアログの以下の項目を設定します。
  - ジョブネットID  
テンプレートジョブのジョブネットIDをテキストで入力します。
  - ジョブネット名  
テンプレートジョブのジョブネット名をテキストで入力します。
  - OS種別  
実行対象ノードのOS種別を選択します。

『追加』、『変更』をクリックすると、テンプレートジョブの作成、またはテンプレートジョブの変更が可能です。以下の項目を設定します。

- ジョブID  
ジョブを識別する一意なIDをテキストで入力します。
- ジョブ名  
ジョブを識別する名前をテキストで入力します。
- コマンド・共通スクリプト（ラジオボタン）  
通常のジョブ管理機能と同様に、ジョブが動作するエージェント側に存在するコマンドを使用するか、マネージャ側で用意した実行ファイル（共通スクリプト）を使用するかを選択します。
- コマンド  
実行するコマンドをテキストで入力します。
- 共通スクリプト  
実行する共通スクリプトを選択します。共通スクリプトは、事前にHinemosマネージャに配備しておく必要があります。<sup>※1</sup>
- 引数  
コマンドや共通スクリプトに与える引数を設定します。
- 実行ユーザ  
ジョブを実行するユーザをテキストで入力します。
- 先行ジョブ失敗時の動作  
先行するジョブが失敗した場合のこのジョブの動作を決定します。
  - 継続  
先行ジョブの成否にかかわらず実行します。
  - 停止  
先行ジョブが失敗した場合、実行せずに停止します。インスタンス終了時のテンプレートジョブにおいてジョブが停止した場合には、インスタンスの終了処理は行われません。
  - 終了  
先行ジョブが失敗した場合、実行せずに終了します。インスタンス終了時のテンプレートジョブにおいてジョブが終了した場合には、インスタンスの終了処理はそのまま継続されます。
- 成功とする戻り値の範囲  
このジョブが成功したとみなす、実行コマンド・共通スクリプトの戻り値の範囲を入力します。

『削除』でジョブを追加・変更・削除することができます。また、『上へ』、『下へ』でジョブの実行順序を制御することができます。

ここで作成したテンプレートジョブは、『TemplateJobRoot(AWS)』というジョブユニット配下に登録されます。Hinemos標準のジョブ管理機能からこれらのジョブを確認・変更することができます。

※ 共通スクリプトは、テンプレートジョブ作成前にHinemosマネージャに配置する必要があります。Hinemosマネージャの /opt/hinemos/var/cloud 以下にスクリプトファイルを配置します。Hinemosエージェントは、Hinemosマネージャから共通スクリプトをダウンロードして、テンプレートジョブを実行するため、エージェントに共通スクリプトを配置する必要はありません。

## 12.7 テンプレートの登録

テンプレートを新規に作成します。テンプレート作成で選択するAMIは、[テンプレート機能の動作要件](#)に記載した動作条件を満たすAMIである必要があります。

1. クラウド[テンプレート]ビューで『登録』をクリックします。

2. 以下の項目を設定します。

- リージョン  
AMIを選択する際のリージョンを指定します。
- テンプレートID  
テンプレートを識別するための一意なIDをテキストで入力します。
- テンプレート名  
テンプレートにつける名前をテキストで入力します。
- AMI  
テンプレートからインスタンスを作成する際に使用するAMIを指定します。『参照』をクリックしてクラウド[AMI選択]ダイアログを表示し、『フィルタ』に選択したいAMI名を中間一致で入力し、『検索』をクリックします。指定したリージョンで有効なAMIが『AMIリスト』に表示されるため、選択して『OK』をクリックします
- 作成時用テンプレートジョブ  
テンプレートからインスタンスを作成した際に起動するジョブを指定します。ここで指定するジョブは事前に作成済みでなくてはなりません。テンプレートジョブの作成方法は [テンプレートジョブの作成](#) を参照してください。
- 起動時用テンプレートジョブ  
テンプレートから作成したインスタンスを起動する際に実行するジョブを指定します。ここで指定するジョブは事前に作成済みでなくてはなりません。テンプレートジョブの作成方法は [テンプレートジョブの作成](#) を参照してください。
- 停止時用テンプレートジョブ  
テンプレートから作成したインスタンスを終了する際に実行するジョブを指定します。ここで指定するジョブは事前に作成済みでなくてはなりません。テンプレートジョブの作成方法は [テンプレートジョブの作成](#) を参照してください。

3. OKボタンをクリックします。テンプレートが登録されます。

## 12.8 テンプレートの削除

1. クラウド[テンプレート]ビューで削除したいテンプレートを選択し、『削除』をクリックします。

## 12.9 テンプレートの変更

1. クラウド[テンプレート]ビューで変更したいテンプレートを選択し、『変更』をクリックします。
2. 変更内容を設定します。設定項目については [テンプレートの登録](#) を参照ください。

## 12.10 テンプレートを使用したインスタンス作成

1. クラウド[テンプレート]ビューで使用したいテンプレートを選択し、『インスタンス作成』をクリックします。
2. [EC2インスタンスの作成](#) と同様の設定を入力します。但し、AMIの項目は不要です。代わりにテンプレートの項目を設定します。<sup>※</sup>
3. OKボタンをクリックします。テンプレートを使用したインスタンスが作成されます。

※ テンプレートの項目には、1で選択したテンプレート名がデフォルトで設定されています。

## 13 Hinemosマネージャの設定一覧



**パラメータ[hinemos.cloud.autoupdate.inerval]**

プロパティ	hinemos.cloud.autoupdate.inerval
プロパティ名	自動検知の実行間隔
説明	自動検知が動作する間隔（単位:ミリ秒）を指定します。0を指定した場合には、クラウド管理オプションの自動検知機能が全て働かなくなります。
データ型	整数
デフォルト値	600,000 (10分)

**パラメータ[hinemos.cloud.autoupdate.instance]**

プロパティ	hinemos.cloud.autoupdate.instance
プロパティ名	インスタンス作成・削除検知の有無
説明	本パラメータをtrueとすると、クラウド管理オプションを経由せずにインスタンスを作成・あるいは削除した場合に、自動的にクラウド管理パースペクティブのクラウド[インスタンス]ビューに反映されます。そのインスタンスがリポジトリに登録されるか否かは、hinemos.cloud.autoregist.instance パラメータに依存します。
データ型	論理 (true, false)
デフォルト値	true

**パラメータ[hinemos.cloud.autoregist.instance]**

プロパティ	hinemos.cloud.autoregist.instance
プロパティ名	インスタンス作成・削除検知後のリポジトリ登録の有無
説明	本パラメータをtrueとすると、クラウド管理オプションを経由せずに作成されたインスタンスを自動検知した場合に、自動的にファシリティIDを割り当てリポジトリに登録します。また、クラウド管理オプションを経由せずに削除されたインスタンスを検知すると、自動的にリポジトリから削除します。このパラメータは、hinemos.cloud.autoupdate.instance パラメータがtrueの場合に限り有効です。
データ型	論理 (true, false)
デフォルト値	true

**パラメータ[hinemos.cloud.aws.node.ip]**

プロパティ	hinemos.cloud.aws.node.ip
プロパティ名	IP・DNS名の公開・非公開
説明	インスタンスがHinemosのノードとして自動登録される際に、クラウドサービスが付与するパブリックなIPアドレスとプライベートなIPアドレスのどちらを採用するかを選択します。
データ型	文字列 (public, private)
デフォルト値	public

**パラメータ[hinemos.cloud.autoupdate.node]**

プロパティ	hinemos.cloud.autoupdate.node
プロパティ名	IPアドレス更新有無
説明	本パラメータをtrueとすると、クラウド管理オプションを経由せずにインスタンスのIPアドレスが変更された場合に、IPアドレスの変更を定期的に検出します。IPアドレスが変更されたインスタンスがリポジトリに登録されている場合、登録されているノードのIPアドレスを更新します。
データ型	論理 (true, false)
デフォルト値	true

**パラメータ[hinemos.cloud.autoupdate.mount]**

プロパティ	hinemos.cloud.autoupdate.mount
-------	--------------------------------

プロパティ名	ストレージのアタッチ・デタッチ検出の有無
説明	本パラメタをtrueとすると、クラウド管理オプションを経由せずにストレージをアタッチ・デタッチした場合に それらを定期的に検出します。Hinemosのノードとして登録されているインスタンスにストレージがアタッチされた場合、そのノードのデバイスとして該当ストレージ情報が追加されます。逆に、Hinemosのノードとして登録されているインスタンスからストレージがデタッチされた場合、そのノードのデバイスから該当ストレージ情報が削除されます。
データ型	論理 (true, false)
デフォルト値	true

Hinemos クラウド管理オプション ver1.0.0 マニュアル

非売品

- 禁無断複製
- 禁無断転載
- 禁無断再配布

Hinemosは（株）NTTデータの登録商標です。

その他、本書に記載されている会社名、製品名は、各社の登録商標または商標です。

なお、本文中にはTM、Rマークは表記しておりません。